

## 北会津こどもの村幼保園のVIの提案

A2201635 和智 綾乃

### 研究の背景

学校法人白梅 認定こども園北会津こどもの村幼保園(以下、こどもの村幼保園)は、2016年(平成28年)に設立認可を受け開園した認定こども園である。現在、こどもの村幼保園のロゴは学校法人白梅の学園のロゴに園名の表記を変えたものを使用している。しかし、それではこどもの村幼保園の「個性の花を咲かせ自立心を持った子どもに育てほしい」という園の保育方針・教育目標を明確に伝えきれていないことで、こどもの村幼保園が力を入れている子育て支援もうまく発信することができていない。これらの問題点を解決するためにロゴを中心に視覚的に統一したグラフィックツールで園の方針を入園希望者に向け情報を発信する。

### 研究の目的

本研究では、ロゴを含め、ポスターやパンフレットなどの広報物と園内の組札をこどもの村幼保園に関するツールとして提案する。本来のロゴが持つ「黄・赤・緑・青」の色に込められた「明るい・エネルギー・知性・創造力」という意味とカラーリングを尊重し、新規のロゴはこれらの要素を取り入れ、素朴な暖かさのあるデザインを目指すとともに、園の保育方針・教育目標を視覚的に伝える。広報物では、園外へ向けてこどもの村幼保園の様子、力を入れている子育て支援の情報の発信し、園の認知度を上げる。組札では、ビジュアルだけ子どもたちに保育室名を理解してもらう。これらのグラフィックツールを視覚的に統一することで、こどもの村幼保園を利用する園児・保護者・職員や地域の方に愛着を持って親しまれ、園の保育方針・教育目標を園内外に定着させる。

### 研究のプロセス

#### 1. 前期

##### 【北会津こどもの村幼保園への取材】

→園のグラフィックツールの調査、必要なグラフィックツールの検討

##### 【ロゴデザインの考案】※以下3点をコンセプトとして制作

- ・園の教育方針、教育目標を視覚化
- ・園児や職員、地域の方から愛着を持ってもらえるデザイン
- ・園児が園で生活していく中で成長していくイメージを元にロゴを制作

#### 2. 夏季休業中

##### 【職員にサンプルロゴ①のアンケート調査】

→色合いが淡い、くすんだものは園児にとってどうかという意見。

##### 【職員へのアンケートを踏まえ、園児にサンプルロゴ②のヒアリング調査】

→コンセプトを元に、子どもらしさをイメージし、園児でもわかる形を取り入れ制作。

#### 3. 後期

##### 【サンプルロゴ③制作】

→サンプルロゴ①、②を踏まえて、幼保園を発信するデザイン。

##### 【各ツールの制作】



こどものむらようほえん  
みつけたね、じぶんいろ

サンプルロゴ①



北会津 こどものむらようほえん  
みつけたね、じぶんいろ

サンプルロゴ②



きたあいづ  
こどものむらようほえん

サンプルロゴ③

## 成果物(完成作品)

- ロゴ … 1点



### コンセプト

地名の北会津にちなんで、常に北を指している方位磁針の形状を用いた。方向を示す矢印は、保育方針・教育目標の自立心をもって「じぶんいろ」を探していくという意味を含めたことで、園児が未来へ自ら進んでいく姿やのびのびと成長していく様子を表現している。また、三角形の形状は、こどもの村幼保園が会津の山々に囲まれた自然豊かな環境であることや保育室の一つ一つが三角屋根のお家をイメージしていることも表している。ロゴで使用している園名の表記は、園児が読むことのできるひらがなを使用することで、親しみやすさを出すとともに、こどもの村幼保園の素朴で暖かい雰囲気を表している。

- ポスター … 2点

- ・子育て支援「一時預かり」の案内
- ・入園者募集

- パンフレット … 1点

- ・入園案内

- 組札 … 9点

- ・0～5歳児の組札をロゴで示したイメージを元に子どもたちにつたわるデザインを制作全9組
- いちご組(0歳児)、さくらんぼ組(1歳児)、ぶどう組(2歳児)、もも組・ぷらむ組(3歳児)、りんご組・めろん組(4歳児)、いとよ組・ほたる組(5歳児)

## 考察

幼保園のVIの提案という、園児だけでなく、保護者、そこで働いている職員、地域の方に親しみや愛着を持ってもらえることを目的としたデザイン制作の難しさを、身を持って実感することができた。特にVIの中心となるロゴに関しては、伝えたい複数のイメージを子どもに伝わる簡単な構成にすることが難しかった。そのため、当初予定していたサイン計画が不十分になってしまったことが反省点である。しかし、定期的にこどもの村幼保園に取材に行くことで様々な意見を聞くことができた。夏季休業中には、サンプルロゴの調査を2回実施し、職員と園児にアンケート調査とヒアリング調査を行ったことにより、十分な結果が得られた。それらを元に何度も相手の求めるデザインに作りあげていく過程を通して、自身のデザインの表現性を高めることができたように思える。